

(4) 平成29年度 事業報告

平成29年度の発酵乳・乳酸菌飲料市場は、国民の健康志向に支えられ順調に拡大した。一方、加工食品の原料原産地表示基準が改正され、また衛生面においては、HACCP衛生管理の制度化等食品衛生規制の大幅見直しが進められるなど業界を取り巻く環境は大きく変化した。

これらの状況の下、本協会は、①食品安全の推進 ②経営及び流通の合理化 ③乳酸菌情報の積極的な発信を重点課題として下記の事業を実施した。

1. 衛生及び品質の向上に関する事業

(1) 食品衛生セミナーの開催

HACCPの制度化、営業許可制度の見直し等を柱とした食品衛生法等改正のスケジュールが明らかになったことから、管理者を対象として、改正内容についての行政説明会を開催した。

ア 演題：食品衛生規制の見直しについて

イ 講師：厚生労働省 医薬・生活衛生局 道野英司 食品監視安全課長

ウ 開催日/場所/参加者数

平成30年2月26日/アルカディア市ヶ谷/50名

(2) 食品表示セミナーの開催

加工食品の原料原産地表示等に関する新しい食品表示基準の普及・定着を図り、また、虚偽誇大表示の防止等に関する消費者庁通知「健康食品に関する景品表示法及び健康増進法上の留意事項について」の周知を目的として、管理職を対象としたセミナーを開催した。

ア 演題：食品表示監視行政の最近の動向

イ 講師：消費者庁 表示対策課 食品表示対策室 島田敏雄 食品表示調査官

ウ 開催日/場所/参加者数

平成30年2月21日/グランドヒル市ヶ谷/62名

(3) ビフィズス菌検査研修会の開催

品質管理担当者を対象に、ビフィズス菌・乳酸菌についての知識の習得及びこれらの検査技術の向上を目的とした研修会を開催した。

ア プログラム

－講義

(ア) 乳酸菌とビフィズス菌の基礎 (細野明義 信州大学名誉教授)

(イ) 発酵乳・乳酸菌飲料における微生物学の基礎と検査方法

((公財)日本乳業技術協会)

－検査実習 ((公財)日本乳業技術協会)

(ウ) ビフィズス菌数試験法

(エ) 乳酸菌数試験法

(オ) 大腸菌群試験法

イ 開催日/場所/参加者数

－開催日：第一回：平成30年1月29日・30日

第二回：平成30年2月5日・6日

－開催場所：(公財)日本乳業技術協会

－参加者数：計15名

2. 製造技術・製造施設の改善及び経営・流通の合理化に関する事業

会員企業及び流通大手企業を訪問し、取材記事を「乳酸菌ニュース」に掲載した。

(1) 会員企業の経営理念、事業展開、今後の戦略等の紹介

協力企業：(株)弘乳舎、大内山酪農農業協同組合、

大山乳業農業協同組合、(株)ロッテ

(2) 流通大手の基幹店における発酵乳・乳酸菌飲料の売れ筋、今後の販売戦略等の紹介

協力企業：(株)ハローデイ、イオン九州(株)、

マックスバリューストア(株)、(株)阪急オアシス

(3) 最新の生産設備・容器包装の紹介(新規)

協力企業：日本テトラパック(株)

3. 知識の普及・消費の増進に関する事業

発酵乳・乳酸菌飲料に関わる情報を「乳酸菌ニュース」、「はつらつファミリー」及び「協会ホームページ」に掲載した。

(1) 「乳酸菌ニュース」

ア 掲載内容

(ア) 学術情報(寄稿)

第一回：「腸内細菌が健康寿命を決める

－プロバイオティクスで腸内環境をコントロール－」

第二回：「プロバイオティクスで病気を予防する」

((国研) 理化学研究所 辨野義己 特別招聘研究員)

(イ) 行政情報 (寄稿)

- － 「食品用器具・容器包装の規制に関する検討会について」
(厚生労働省)
- － 「乳製品が動物検疫の対象になります」
(農林水産省)
- － 「最近の景品表示法に関する取り組みについて」
(消費者庁)
- － 「年頭挨拶」
(関係省庁担当課長)

(ウ) 健康情報 (取材)

- － 「肥満・メタボリックシンドローム外来での食事指導」
(京都医療センター 浅原部長)
- － 「子供の肥満・生活習慣病と腸内細菌」
(東京女子医科大学 永田教授)
- － 「地域住民の栄養支援の拠点「まちかど健康相談室」の活動」
(ぼけっとステーション 山口代表)
- － 「トップアスリートの栄養管理」
(国立スポーツ科学センター 亀井専任研究員)

(エ) 統計情報

発酵乳・乳酸菌飲料の生産量及び都市別1世帯当たりの支出金額

(オ) その他関連書籍、新聞雑誌での掲載記事等

イ 発刊頻度/部数：年4回/各1,200部

ウ 配布先：会員、関係行政機関、消費者団体、マスコミ等

(2) 「はつらつファミリー」

ア 掲載内容

- － 生活習慣病の予防
- － 腸内細菌叢の改善
- － 児童及び高齢者の生活改善
- － 乳酸菌の基礎知識

イ 発刊頻度/部数：年3回/各10,000部

ウ 配布先：会員、関係行政機関、栄養士会、消費者センター等

(3) 「協会ホームページ」

ア 掲載事項

(ア) 会員向け

総会資料、協会主催の行政説明会又は講習会に用いた資料、各種

統計情報等

(イ) 一般消費者向け

学術情報、健康情報等

イ 更新頻度：年5回：1月、4月、6月、7月及び10月

ウ ホームページ利用状況

アクセス数：1,482,407件

※昨年比112.9% (昨年度1,312,861件)

4. 情報・資料の収集及び提供に関する事業

(1) 行政情報

関係省庁から公表された食品衛生、食品表示等の関係情報を、メール及び文書により会員へ伝達した。

(2) 海外情報

ア 英国、北アイルランドで開催された、国際酪農連盟（IDF）主催の「IDF World Dairy Summit Belfast 2017」に参加し、情報収集を行った。

(報告書は、乳酸菌ニュース新年号に掲載)

イ コーデックスにおける国際規格作成の動向について、日本国際酪農連盟の委員会等に出席する等関係情報を収集した。

新たな動きとしては、今年の11月、ベルリンで開催される栄養・特殊用途食品部会において、食品、サプリメント等に使用されるプロバイオティクスについて、「定義」「安全性」「有効性」等を規定するガイドラインの作成が検討される旨の情報を得た。

(3) 発酵乳・乳酸菌飲料製造施設におけるHACCP導入・実施に関する調査を実施した。(調査の概要は、別紙1)

5. その他本会の目的達成に必要な事業

(1) 相談事業

発酵乳・乳酸菌飲料の特性・品質に関するマスコミ、会員等からの問い合わせに対応した。(電話、メール、FAX等)

問い合わせの件数：合計81件

※内訳：マスコミ16件、会員16件、消費者14件、その他35件

(2) 環境問題啓発活動への参加

紙製容器包装リサイクル推進協議会、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会等の3R関係団体が実施する展示会への人材派遣等、食品容器包装の環境問題の啓発活動に参加した。

(3) 訪問販売の規制への対応

訪問販売に関する適正な規制を目的として、経済産業省及び関係団体と連携を強化するとともに関連情報の収集等を行った。

(4) 新会員の勧誘

非会員に対して、行政説明会、表示研修会及びビフィズス菌検査研修会への参加を呼びかけるとともに協会・協議会への加入を勧めた。

平成29年度においては、正会員として「(株)豊富牛乳公社」及び「(株)ロッテ」の入会があった。また「(株)ロッテ」の正会員としての入会に伴い賛助会員としての退会があった。

これにより、平成29年度会員数は、112社（正会員56社、賛助会員56社）となった。

	平成28年度	平成29年度	増減
正会員	54社	56社	2社増
賛助会員	57社	56社	1社減
合計	111社	112社	1社増

以上

(注) 事業報告に係わる附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。